

災害時、トイレ問題が深刻化し、せつかく助かった命が危険を強いられます。

- 災害時、停電や断水等によりトイレが使えなくなり、また避難所も多くの人押し寄せトイレが不足すると、
- トイレ我慢→飲食我慢→ストレス状態～体調悪化の連鎖となり、せつかく助かった命が危険を強いられます。
- 熊本地震では、災害死50人に対し、避難生活の心身負担で81人を亡し、災害より避難で命を失いました。



出典：日本財団



出典：日本トイレ研究所



出典：日本トイレ研究所

●熊本地震：関連死の原因と人数

原因	人数
地震のショック、余震への恐怖による肉体的・精神的負担	112
避難所生活などの肉体的・精神的負担	81
医療機関の機能停止などによる初期治療の遅れ(転院、既往症の悪化など)	46
電気、ガス、水道などの途絶による肉体的・精神的負担	14
社会福祉施設などの介護機能の低下	9
交通事情などによる治療の遅れ	2
多量のじん灰の吸引	1
その他(家屋倒壊による外傷など)	15

※熊本県／震災関連死認定者への調査

「みんな元気になるトイレ」とは？

① 快適に使える

広々とした3個室に洋式便座を配置。プライバシーが十分に確保された室内には、換気扇や清掃用の排水口なども配備され、長期の使用でも衛生状態を維持できます。
※1室に「おむつ替え台」「ベビーキープ」を配置。



② すぐに使える

車体を牽引するだけで、少ない人手で使用場所への移動が可能。充電式バッテリーが搭載されているため、被災直後の断水下でもすぐに使い始めることができます。



③ 長く使える

衛生環境維持に配慮した各種機能だけでなく、外部電力との接続やソーラーパネルからの太陽光充電機能により、数ヶ月におよぶ避難生活でも使い続ける事が可能。

